

最後までやり通す力

当「起業アドバイザー便り」も本年10月をもって120号になり、平成17年(2005)11月を初号としてスタートしてから早や10年になります。

思い起こせば当時の書店には、IT ビジネスや M&A 関連誌が数多く平積みされ、ベンチャー事業経営者のサクセスストーリーが華やかでした。

私は事業経営者のはしくれとして、身をもって事業経営とは事上磨练(じじょうまれん/実際に行動や実践を通して知識や精神を磨くこと)の成せる業で、先ずもって実業でなければならないと思って来ましたので、マスコミや出版社のこれらの企画の動きに、常日頃違和感をもってきました。

ですから冷静に考えて、若く知識の浅い人たちが抱く起業というもに対して、もっと正しくかつ根本的なことがらを伝える必要を強く感じました。

当時は一説に「失われた15年」と伝われつつある時代に、社会も元気がなく閉塞感を感じていましたので、若者が起業を通して、これからの自らの人生を切り拓くべく挑戦魂を燃えたぎらせて欲しいと、大いに期待したいものと思ったからです。そのことからして私の狙いは、そもそもその入り口たる起業の初歩的なことがらを幅広くアドバイスするためでした。

私は自身が大きなものごとをスタートさせる時、必ずや自問自答します。やるべきことを決めたとしても、けして安易な考えでそれにとりかかってはならない。熟慮して信念と体力そして気力に自信がなければ初めから手掛けない。そしてやるからには10年はやりとおすのだとの自分との約束です。

何か大きなことをスタートさせたら途中下車は出来ない。仮にそうした姿勢を他から見たら自身の評価を下げることだと見聞き知っております。ですから月並みな言葉になりますが「継続は力なり」を実感すると共に、「あきらめない」「投げださない」「耐えることを知る」との大切さを折にふれ心に止めて、ものごとに臨んで来ました。

これも私の一例ですが、かつて祖業の企画・デザイン・印刷業のナショナルプレス(株)を、昭和46年(1971)に創業し、その後の昭和53年(1978)9月から昭和63年(1988)9月の間の土曜休日制を導入する際の「月刊カレンダー」です。それはクライアントや関係者に土休日を予め通知し、業務に支障無きようとの計らいから生まれた特注のハガキの裏面に記したもので、120ヵ月10年続けて、平成12年(2000)の創業30周年に小冊子「ロマンと算盤と」に取纏め関係者の皆様にお配りさせて頂いたことがあります。

当「起業アドバイザー便り」も120号、10年でひとつの区切りとして小冊子として取纏めようとの考えをもっています。ようやく先が見通せるようになったこん日、これまで同様に心に誓ったことをやり遂げられそうだと安堵感を持ちあわせております。

私の人生も“起承転結”の“結”のゾーンに入ってきていると意識しております。ですからものごとのスタートも大事、そして終り方、締め方もより大事なのだと改めて思っております。